【PJ19-4】自動サービス機におけるキャッシュレス普及促進
セルフレジ分科会
～19年度活動報告～

一般社団法人キャッシュレス推進協議会

2020年6月17日

PAYMENTS JAPAN

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アジェンダ

1. セルフレジ　普及の背景

2. 消費者アンケートの結果

3. 事業者アンケートの結果

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

1．セルフレジ　普及の背景

※本資料における定義、及び略語

■セルフレジの定義

商品登録、会計等を買い物客自身で行うPOS、レジ

■セルフレジの種類

「フルセルフ」　商品の登録から会計まですべて買い物客自身で行う

「セミセルフ」　商品の登録は店員が行い、会計のみを買い物客が行う

登録機　店員が商品登録を行うPOS、レジ

会計機　買い物客が決済を行うPOS、レジ

■略語

・SM　スーパーマーケット。高頻度に消費される食料品や日用品などをセルフサービスで短時間に 購入できるようにした小売業態

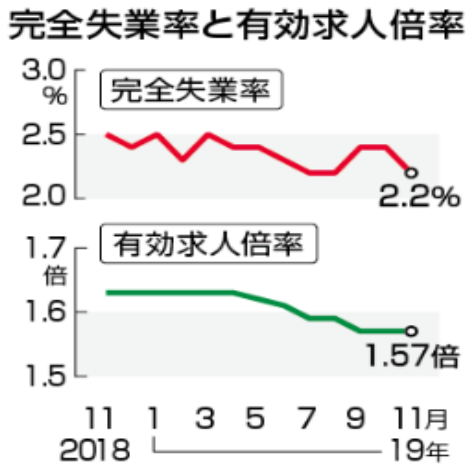
・GMS　ゼネラルマーチャンダイズストア。食料品や日用品のみならず、衣料品や家電、家具など、様々な商品を総合的に品揃える。

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

流通小売業の “省人化” トレンド

■業界を取巻く環境とトレンド

- 完全失業率低下 ＆ 有効求人倍率上昇・・求職者売手市場
- 小売・飲食・サービス業の人手不足深刻化
- 現有スタッフのレベル・賃金上昇 ⇨ “省人化”
- 業態の垣根を越えた “セルフチェックアウト導入” トレンド



※JIJI.COMより出展

3月求人倍率が急低下　3年半ぶり水準、全都道府県下げ　新型コロナ「非正規」直撃
4/28(火) 8:41配信 時事通信

厚生労働省が28日発表した3月の有効求人倍率（季節調整値）は前月比0.06ポイント低下の1.39倍に急落した。2016年9月以来3年半ぶりの水準。新型コロナウイルスの感染拡大で企業の経営が悪化し、05年2月に就業地別での調査を開始して以来初めて全都道府県で低下した。また総務省が同日発表した3月の労働力調査によると、完全失業率（同）は0.1ポイント上昇の2.5%となり、2カ月ぶりに悪化した。

※量販店の定義：商品を大量に仕入れ、大量に安く販売する（大量販売=量販）ことを方針としている小売店。ここでは主にGMS、SM、ホームセンター、ディスカウントスーパー、ドラッグストア等を示す。

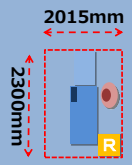
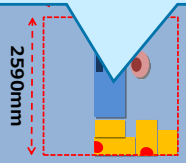
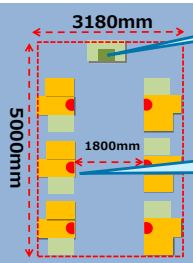
© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

チェックアウトスタイル別 効率比較

登録：店員
会計：店員

登録：店員
会計：買い物客

登録：買い物客
会計：買い物客

比較項目	通常レジ	セミセルフレジ	フルセルフレジ
■設置面積生産性 ※下記設置イメージ参照	◎ 11.5人／㎡	○10.9人／㎡	×7.5人／㎡
■人時生産性 平均買上点数：１０点 現金決済条件で試算した 客捌き期待値併記	△ 68sec／人 ⇒ 53人／h	○ 43sec／人 ⇒ 84人／h	◎ 180sec／人 20人／h／台×6L ⇒ 120人／h
■稼動迄の手間	○	○	△ ｲﾝｽﾄｱﾏｰｷﾝｸﾞ含めﾊﾞｰｺｰﾄﾞ率100%が理想
■エンターティメント性	△	△	◎
■概算設置面積 ※一般的なレイアウトで通常レジとセミセルフは隣りのレーンとの通路幅も加味した。何れのパターンもあくまで一般的な什器サイズで換算した、凡その面積。	 約4.6㎡	 約7.7㎡	 約16㎡
■今後2~3年の稼動伸長予想 ※弊社実績からの予想	↘	↗	→

通常レジ比
１５８％！

通常レジ比
２２６％！

登録機：1台（店員）
会計機：2台（買い物客）

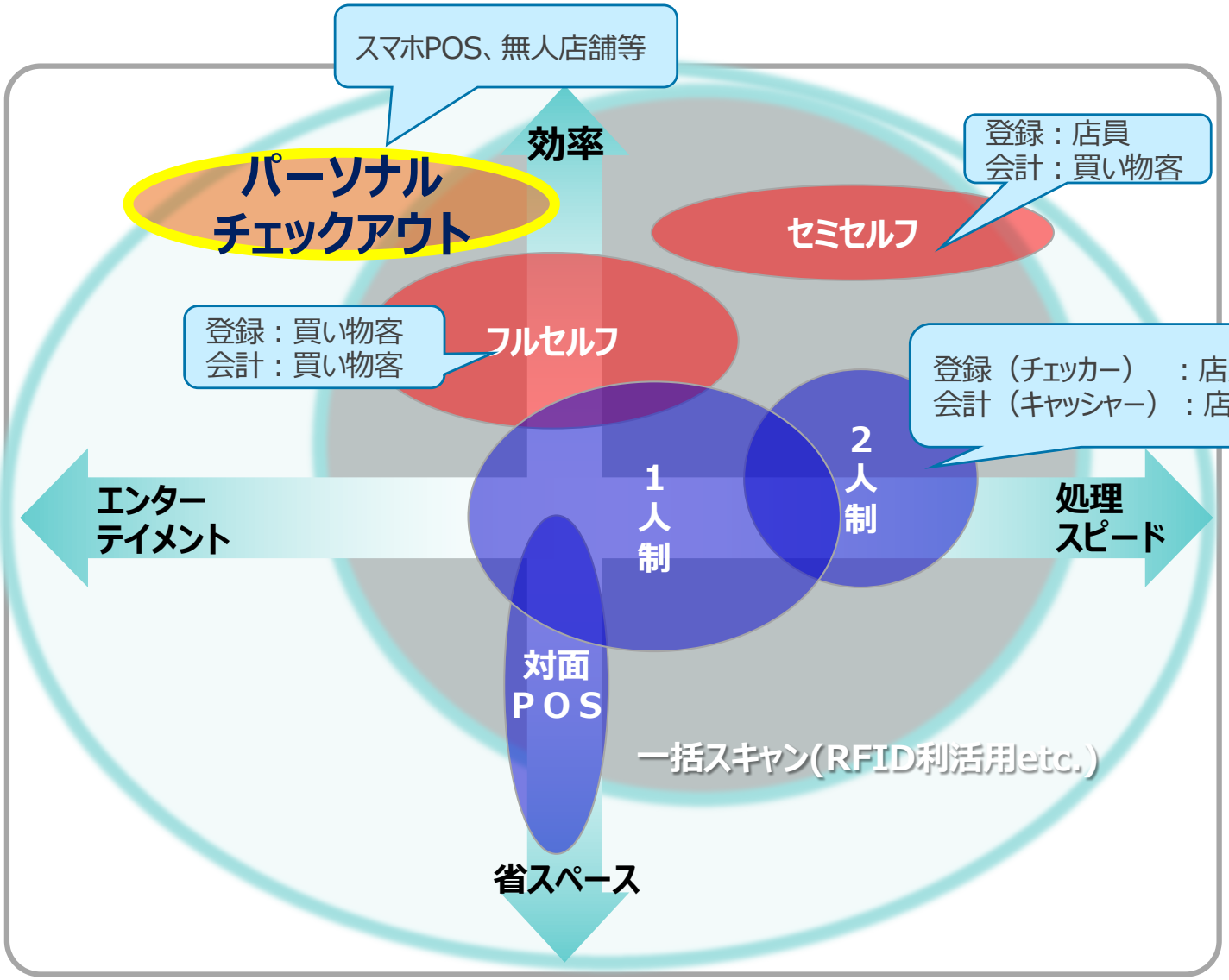
アテンダント：1名
※操作等のヘルプ

フルセルフレジ：6台

※数値は某POSメーカーの試算によるもの

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

チェックアウトソリューションMAP



マーケット現状と
主なソリューション目的

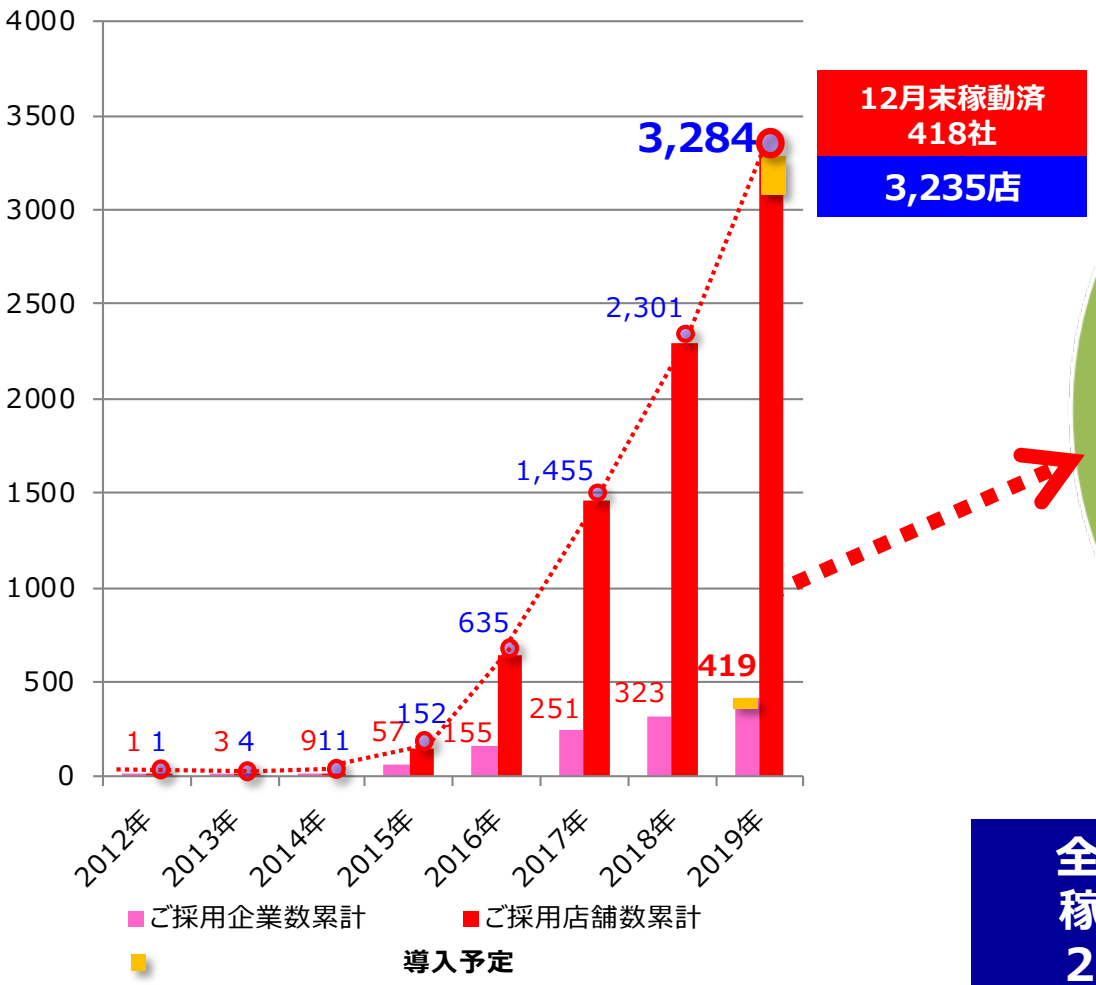
- **人手不足対策**
- **レジ待ち改善**

新たなキーワードは
新しい購買体験

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セミセルフ導入数推移グラフ （2019/12末版）

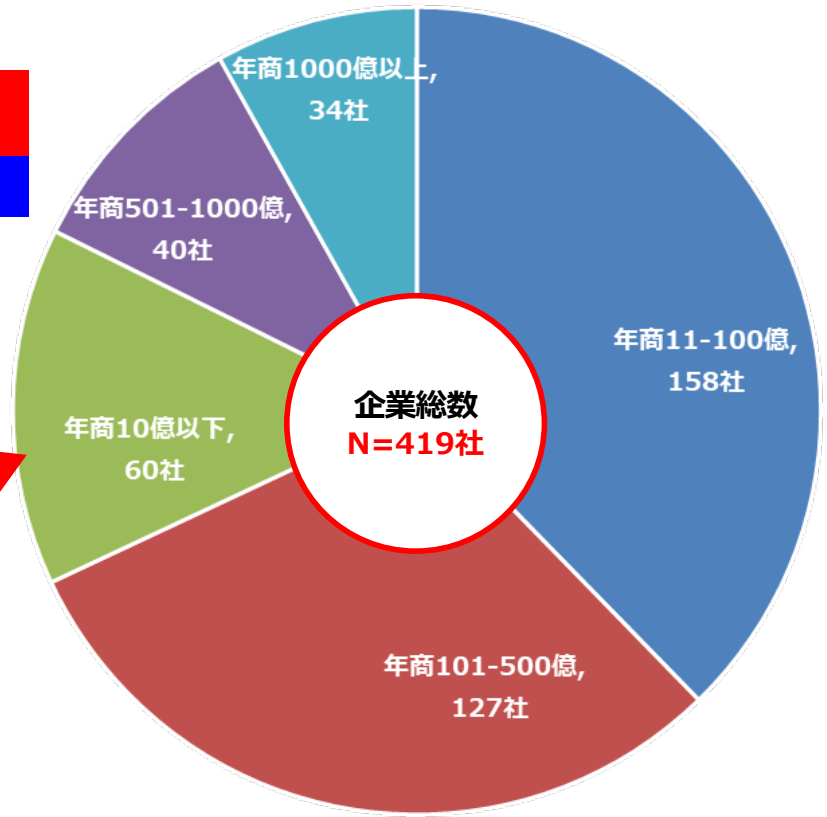
■ご採用企業様数/店舗数推移(暦年表示)



12月末稼動済
418社
3,235店

グラフ中の赤文字：企業数　青文字：店舗数

■ご採用企業様の年商別内訳



全国では現在5,000店舗内外でセミセルフ稼動と推察され、最新統計SM・GMS総数22,257店舗中、既に1／4に迫る普及率

※フルセルフレジはサンプル数が少なく分布グラフは作成していない
※年商別導入率は算出していない
※数値は某POSメーカーの集計によるもの

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

フルセルフレジ回帰の流れ

2008年～ 「(人手不足ではなく) 固定費削減/エンタメ」を目的として、GMS・SM中心にテスト導入が始まる。
2012年～ 一定効果があると判断実証した企業は店舗展開、店舗当たり導入台数が4台から6～8台へ拡大。
2016年～ ＜人手不足対策としてセミセルフの導入が加速＞
2018年～ 狭小店、首都圏ターゲットにキャッシュレスセルフ導入が始まる。セミセルフに当てる人手不足も不足しつつある状況。
⇒ セミセルフに加え、省人化/繁忙時対応を目的にキャッシュレス運用含めたセルフ導入が再検討されている。 拡大転換期

コンビニ

2009年～ 駅ナカ売店で卓上型キャッシュレスセルフ試行開始
2010年～ 各コンビニでフルセルフテスト稼働
2019年～ 各社がフルセルフ導入を発信
⇒ 長時間営業、雇用難が顕在化し急遽セルフ運用が拡大 拡大展開期

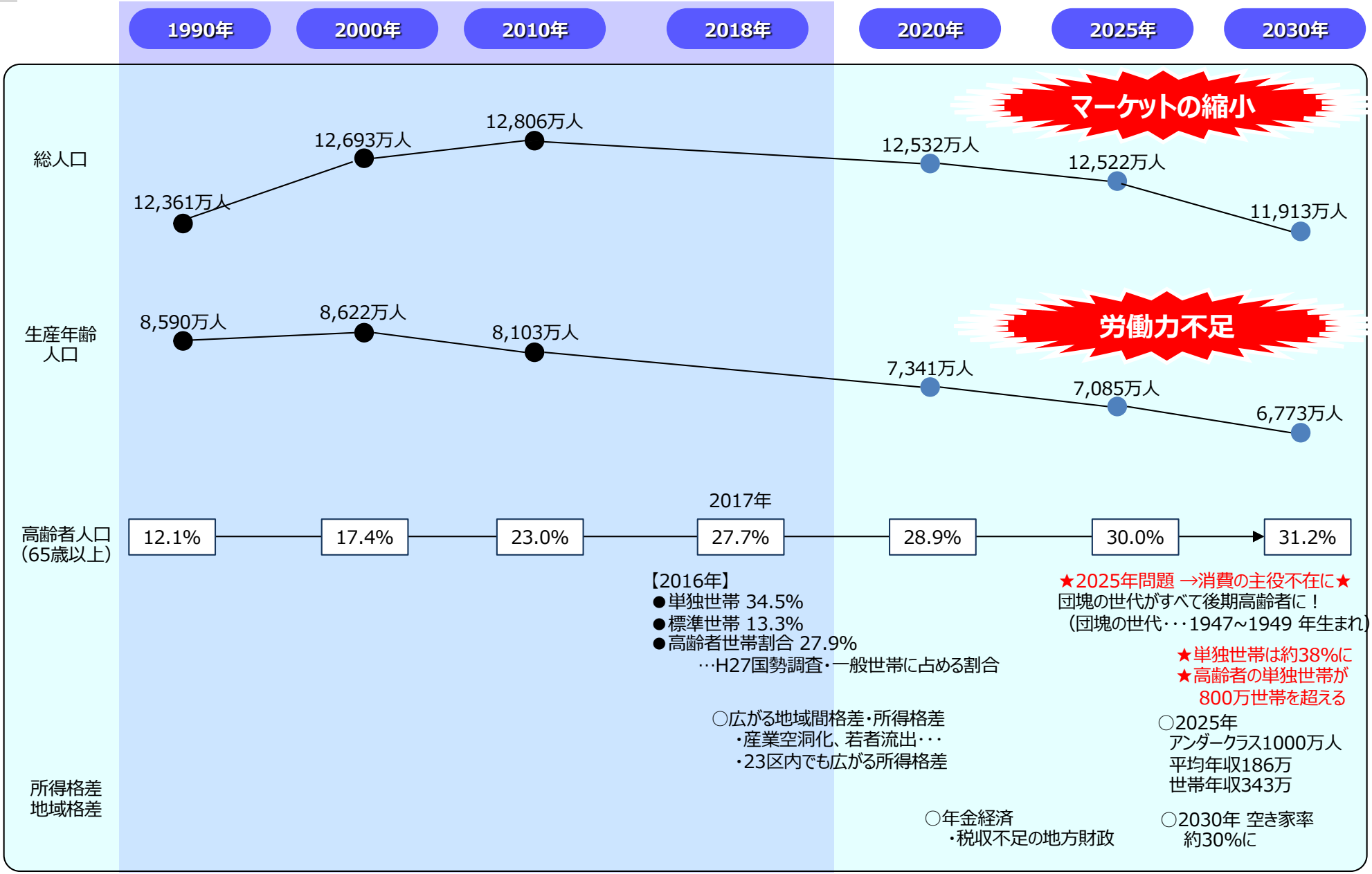
その他

2011年～ 某書籍/音楽/レンタル業にてフルセルフ展開開始
2015年～ 某レンタル業にてフルセルフ展開開始
2016年～ 飲食各業態（回転寿司、ファミレス、ファーストフード）で対面式セミセルフ（会計はお客様）試行
2017年～ 某アパレル業にてRFIDフルセルフ展開開始
⇒ 物販店特にRFIDとセルフの相性○、飲食店は支払いのみ（オーダーはセルフオーダーが拡大）

■ コンビニをはじめ消費者がセルフに触れる機会が増加。デファクトスタンダードになりつつある

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

人口問題（外部環境）



© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

リアル店舗は減少傾向に

ｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄ

既存店売上高
2年連続減
出所：日本チェーンストア協会

ｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱ

既存店来客数
2年連続減
出所：日本フランチャイズチェーン協会

ﾄﾞﾗｯｸﾞｽﾄｱ

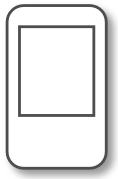
2011年度から
4回前年割れ
出所：日本チェーンドラッグストア協会

人口減少と
薄れる店舗の必要性

銀行

みずほ銀行
2024年までに
100拠点削減
出所：日経コンピュータ

携帯ｼｮｯﾌﾟ



2013年度から
450店減
出所：シードプランニング

米国小売市場

2017年
6955店閉店
出所：米コアサイトリサーチ

来店回数、買上点数を増やす購買体験を提供

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

今後のチェックアウトの姿：人手不足への対応

■流通小売業において人手不足は更に深刻化、チェックアウト業務にかける人手は減少
⇒ 消費者によるチェックアウト運用が今後益々増加傾向

【今後の進む方向性】

①「チェックアウトとしての場が残る」

Fixed Check Out

セルフPOS	セミセルフPOS

＜人手不足対応に向け必要な取組＞
■アテンダント店員レス対応
■営業終了後の作業軽減
現金補充・回収etc

②「チェックアウトそのものが無くなる」
⇒ 店内で買い回りしている中で商品登録が完結

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セミセルフとフルセルフの市場動向

■セミセルフレジ市場

・人手不足と、導入のしやすさから、2015年頃より急速に導入が加速。
・フルセルフと比較すると、商品登録を店員が行う為、チェックアウトスピードは速くなる傾向にある。
・セミセルフレジの場合、売り場の平均買上点数により、登録機と会計機の比率を変えている。

・買上点数が少ない場合　⇒登録機１に対し会計機２もしくは２：３
理由）商品登録に時間がかからない為、会計機を増やすことで効率が上がる
※商品登録時間＜会計時間

・買上点数が多い場合　⇒登録機１に対し、会計機１
理由）商品登録に時間がかかる為、会計機を増やしても効率が上がらない
※商品登録時間＞会計時間

■フルセルフレジ市場

・スーパーマーケットでは、フルセルフをご利用のお客様の案内係（アテンダント）が必要な為、売り場統制が取れる大手ユーザーの導入が多い。
・チェックアウトスピードが求められない専門店、飲食店では、フルセルフ増加傾向がトレンドになりつつある。
・コンビニでは、成人向け、温めもの以外で買上点数の少ない買い物客向けにフルセルフ、しかもキャッシュレス専用フルセルフレジを中心の導入が進んでいる。
・売り場によって、セミセルフとフルセルフの併用導入も見られる。
・今後、より人時効率を求める仕組みとして、フルセルフレジの導入が加速するであろうと推測される。

■その他

・昨今では、コロナウィルスの影響で、店員と接触したくない、現金を扱いたくない意向も導入の理由となりつつある。
・キャッシュレス市場の伸長に合わせてキャッシュレスセルフが広がりを見せている。
⇒コンビニ、スーパーマーケット、ドラッグストアでの導入が進む

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

２．消費者アンケートの結果

本章は、当協議会にて実施した消費者・事業者インサイト調査における、消費者に対するアンケート調査結果に基づき、セルフレジ利用に関する消費者の意識を取りまとめました。

「消費者・事業者インサイト調査」（「インサイト調査」）について
キャッシュレス決済の利用者（消費者・事業者）の意識や過去の行動・経験を明らかにすることで、さらなるキャッシュレスの普及のための要因を探るために、キャッシュレス推進協議会が実施したものです。

- 消費者向けWebアンケート調査：5000サンプル
- 実施期間：2019年9月24日（火）～　9月29日（日）

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

２－１．セルフレジの利用実績

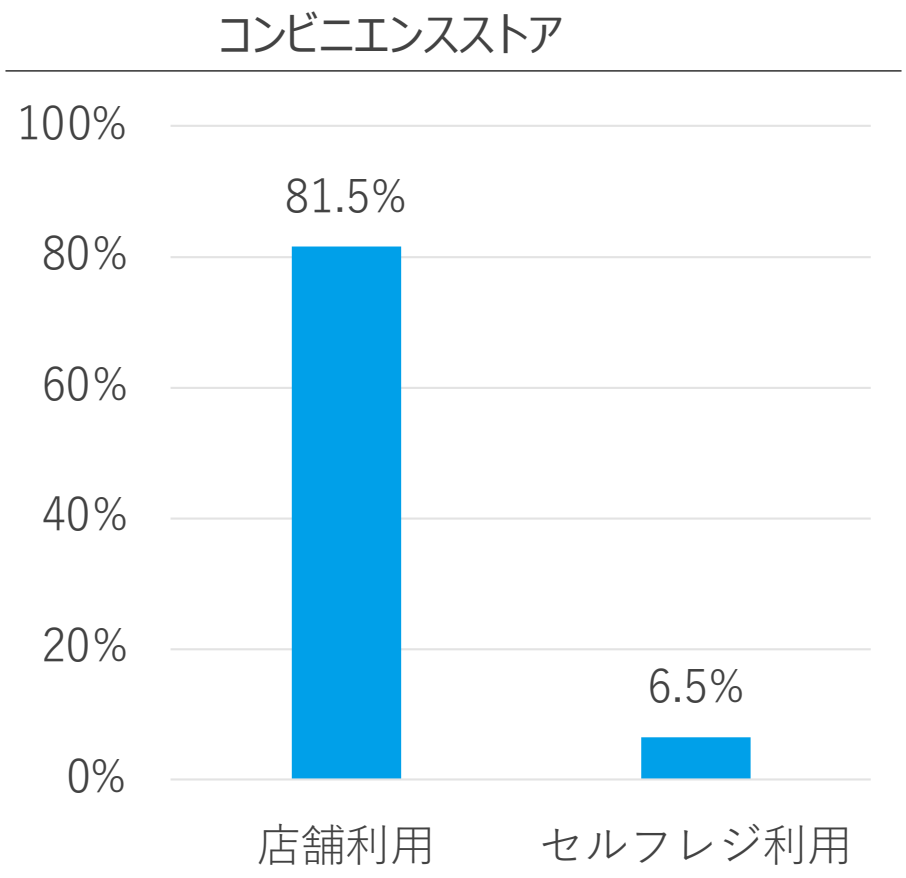
© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

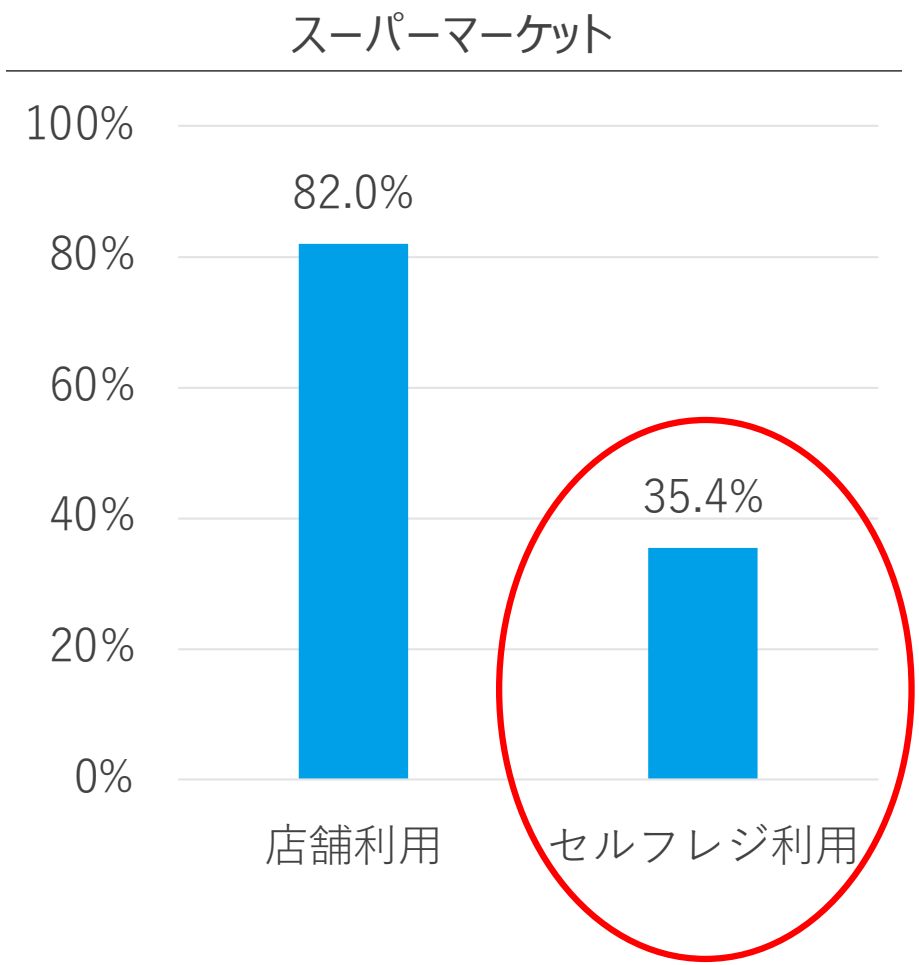
セルフレジの利用状況

【設問】あなたは最近半年間に、以下の店舗・機器を利用しましたか？

【回答】食品スーパーにセルフレジが浸透している。

n=5,000人





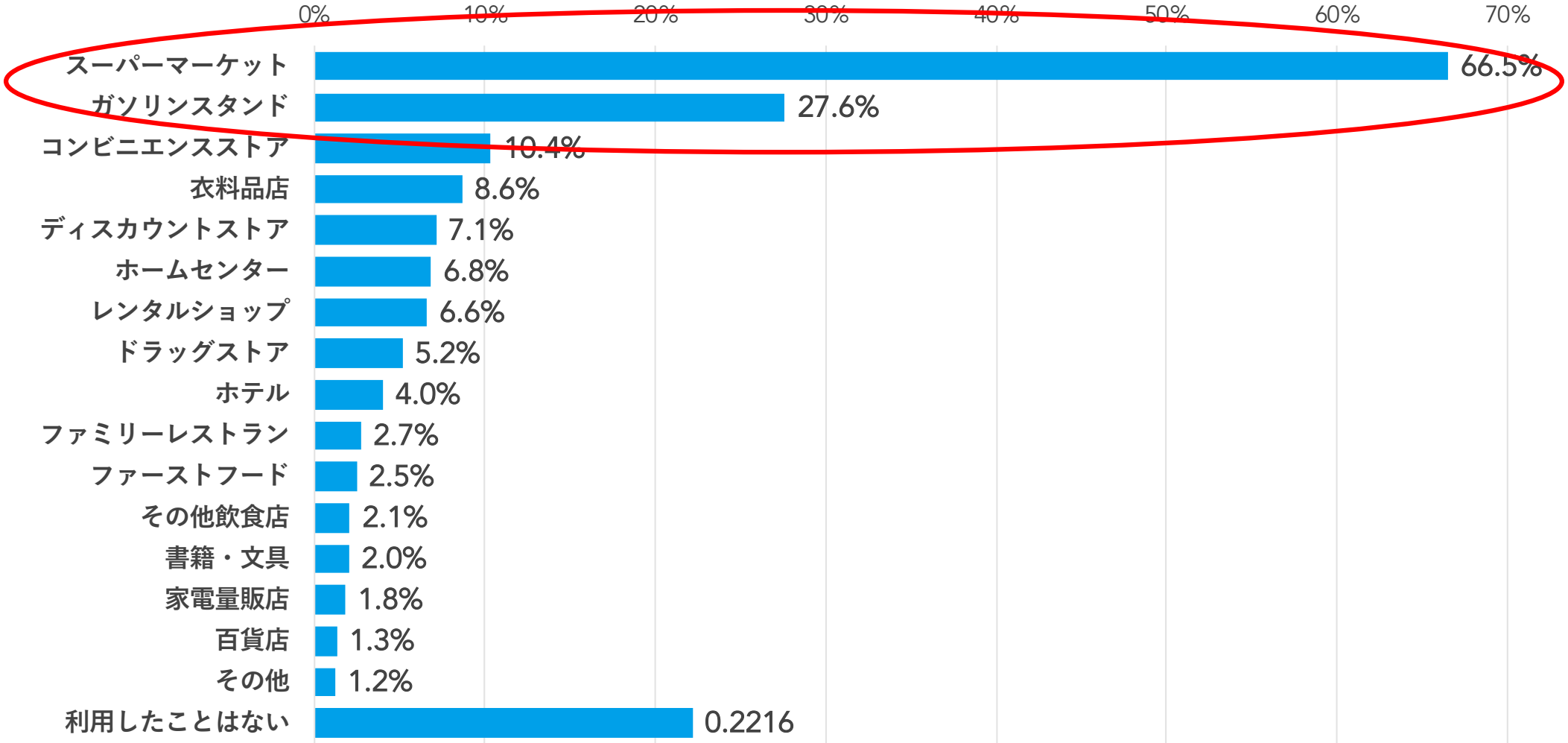
© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジの利用店舗

【設問】あなたは、以下のそれぞれのお店で、セルフレジを利用したことがありますか？

【回答】食品スーパー、ガソリンスタンドにセルフレジが浸透している。

n=5,000人



© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

２－２．セルフレジにおけるキャッシュレス利用意向

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

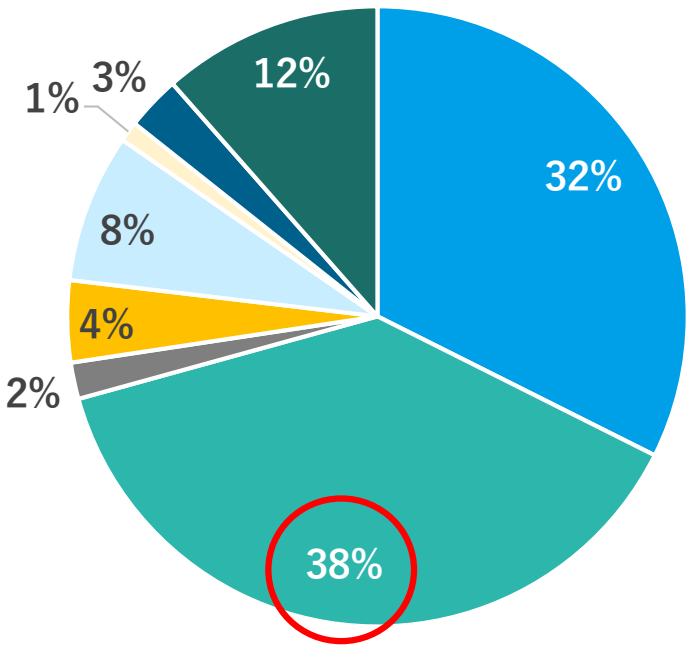
セルフレジにおいて利用したい決済手段

【設問】あなたが、今後、セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」「2番目に利用したいと思う決済手段」をそれぞれお答えください。

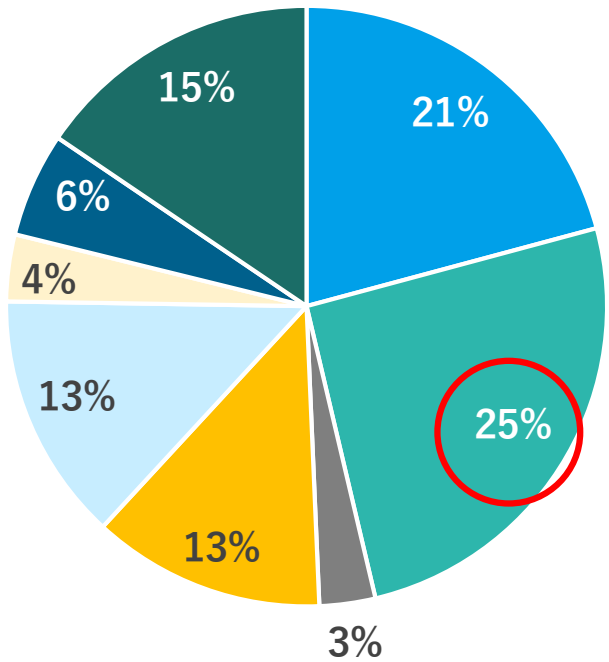
【回答】キャッシュレス利用意向が高く、その中でもクレジットの利用意向が高い。

n=3,891人

最も利用したいと思う決済手段



2番目に利用したいと思う決済手段



- 現金
- クレジットカード
- デビットカード
- 交通系電子マネー
- 交通系以外の電子マネー
- その他のプリペイドカード等
- 非接触IC型決済アプリ
- コード型決済アプリ

- 現金
- クレジットカード
- デビットカード
- 交通系電子マネー
- 交通系以外の電子マネー
- その他のプリペイドカード等
- 非接触IC型決済アプリ
- コード型決済アプリ

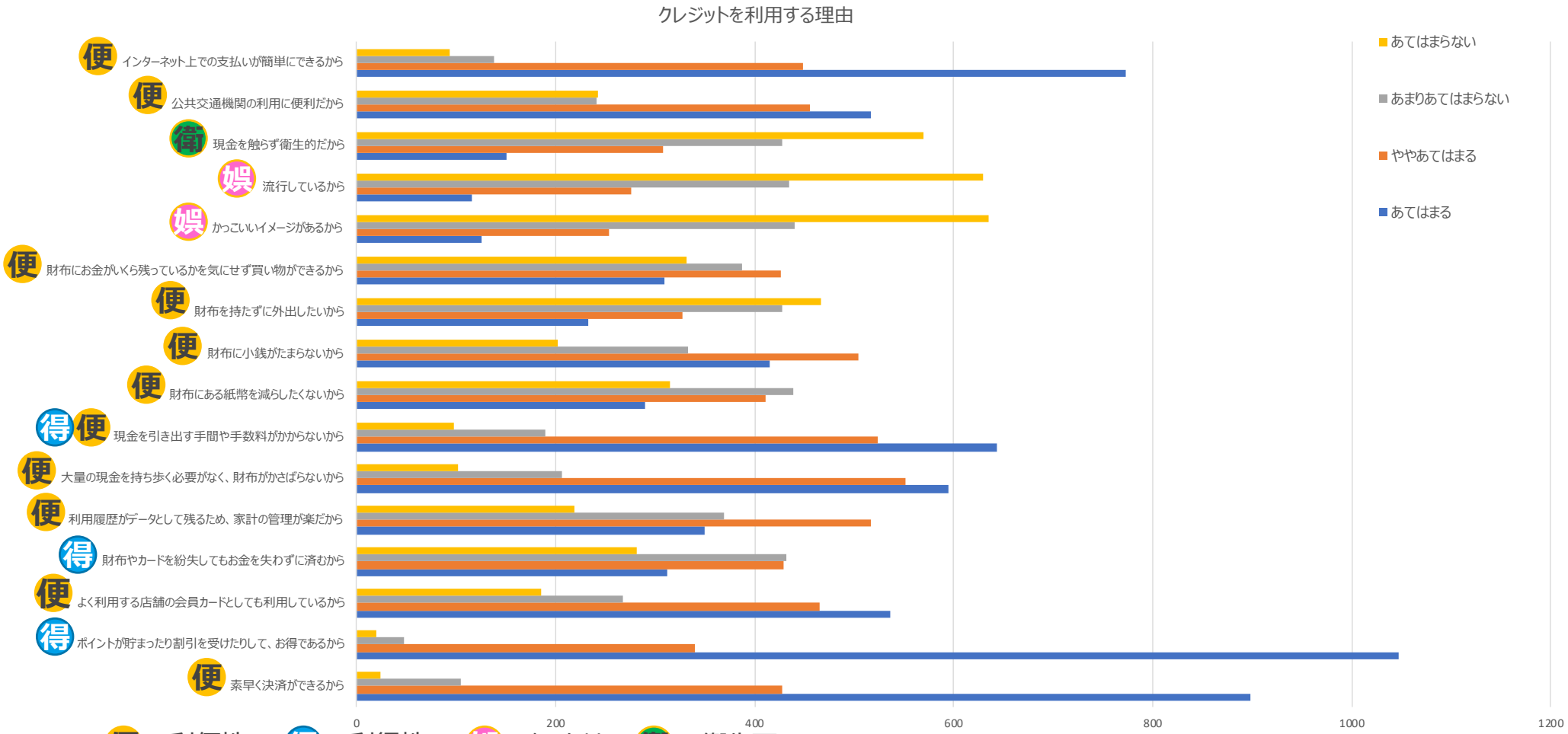
© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

「最も利用したいと思う決済手段」をクレジットカードと答えた方の理由

【設問】セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」をクレジットカードと答えた方から
キャッシュレス決済を利用する理由のクロス集計

【回答】利得性、利便性に関する理由が多い

n=1,483人



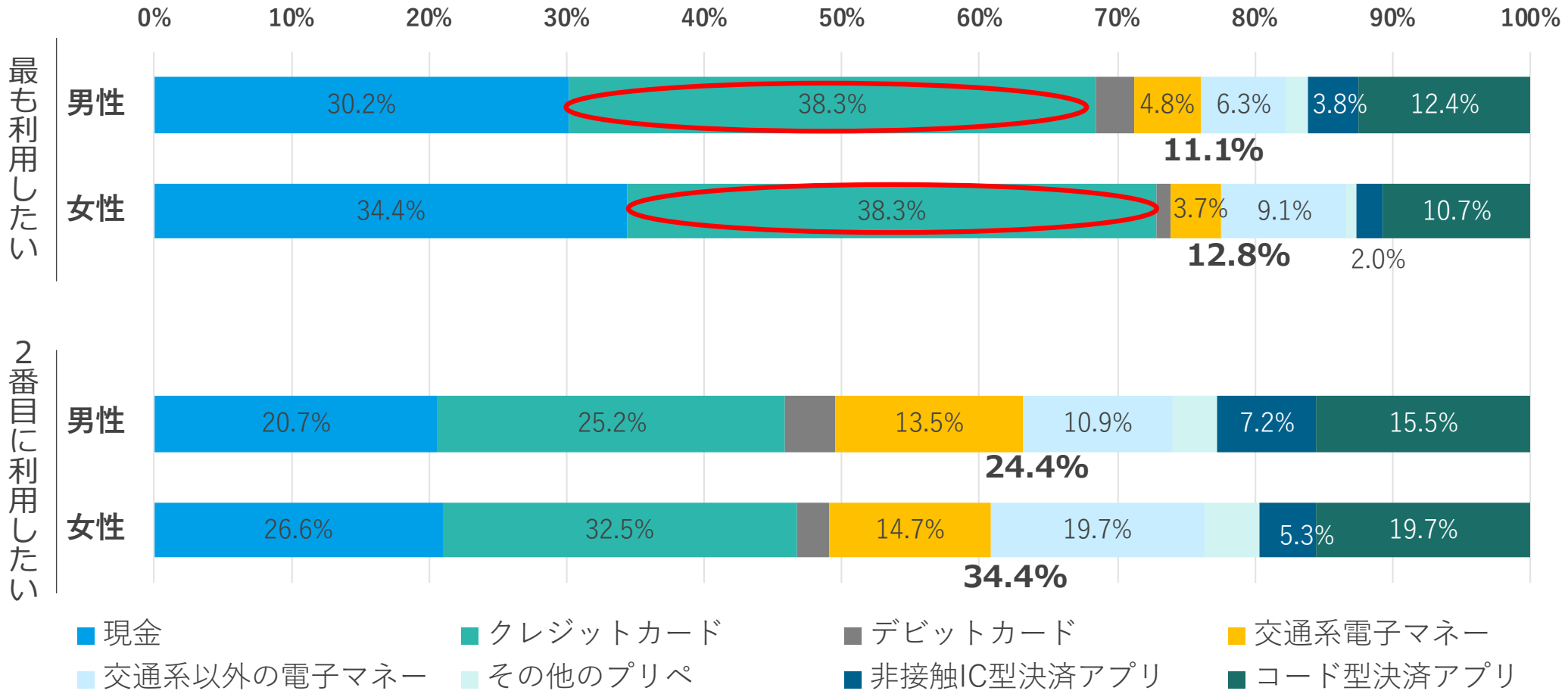
© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジにおいて利用したい決済手段（性別）

【設問】あなたが、今後、セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」「2番目に利用したいと思う決済手段」をそれぞれお答えください。

【回答】男女ともクレジットが現金を上回っている。

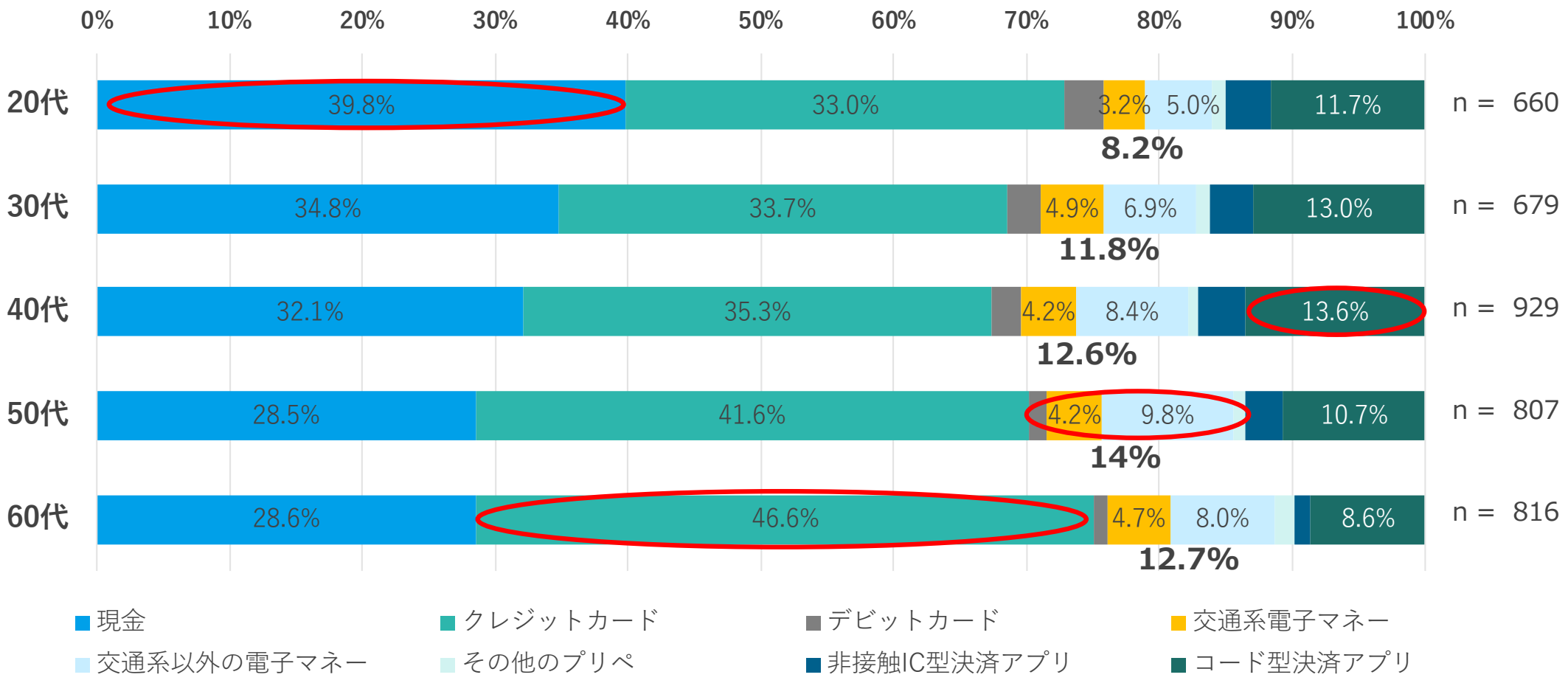
男性 =1,837人
女性 =2,053人



© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジにおいて利用したい決済手段（年代別）

【設問】あなたが、今後、セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」をお答えください。
【回答】クレジットは60代、電子マネーは50代、コード決済は40代がトップ。現金は20代。

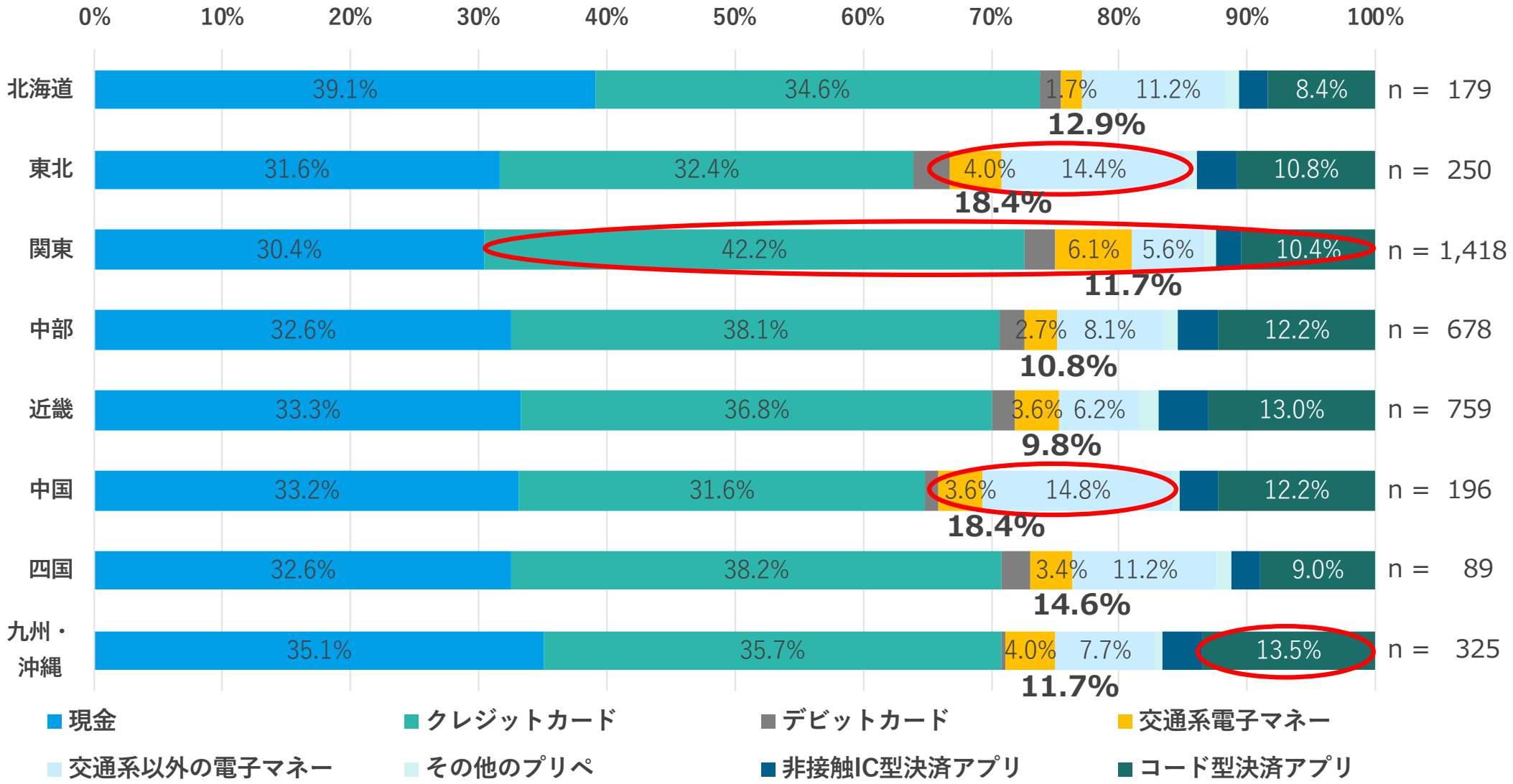


© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジにおいて利用したい決済手段（地域別）

【設問】あなたが、今後、セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」をお答えください。

【回答】全体のキャッシュレス比率は関東が高い。電子マネーは東北、中国、コード決済は九州・沖縄

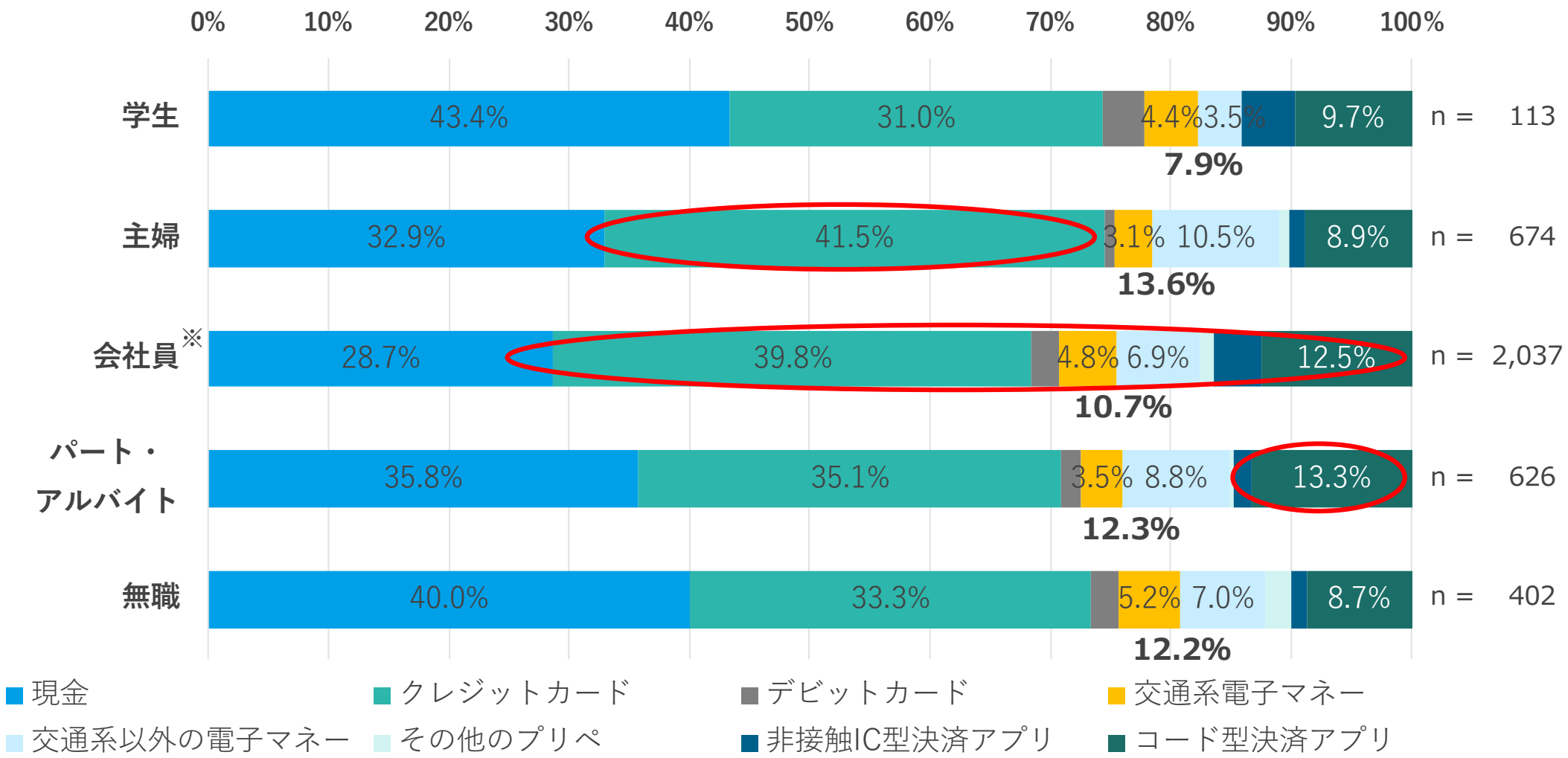


© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジにおいて利用したい決済手段（職業別）

【設問】あなたが、今後、セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」をお答えください。

【考察】全体のキャッシュレス比率は会社員が高いが、クレジットは主婦、コード決済はパートアルバイトが高い。

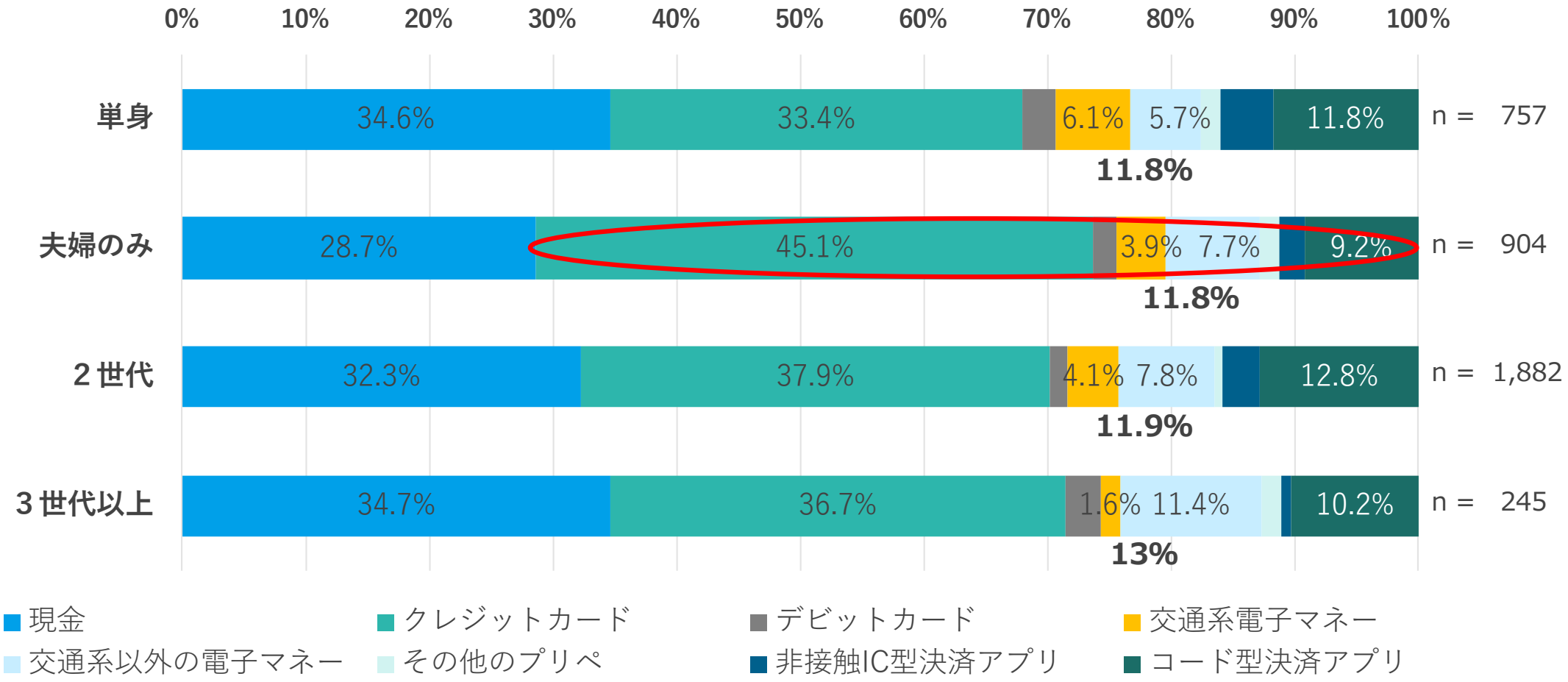


※会社役員、自営業等含む

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジにおいて利用したい決済手段（世帯別）

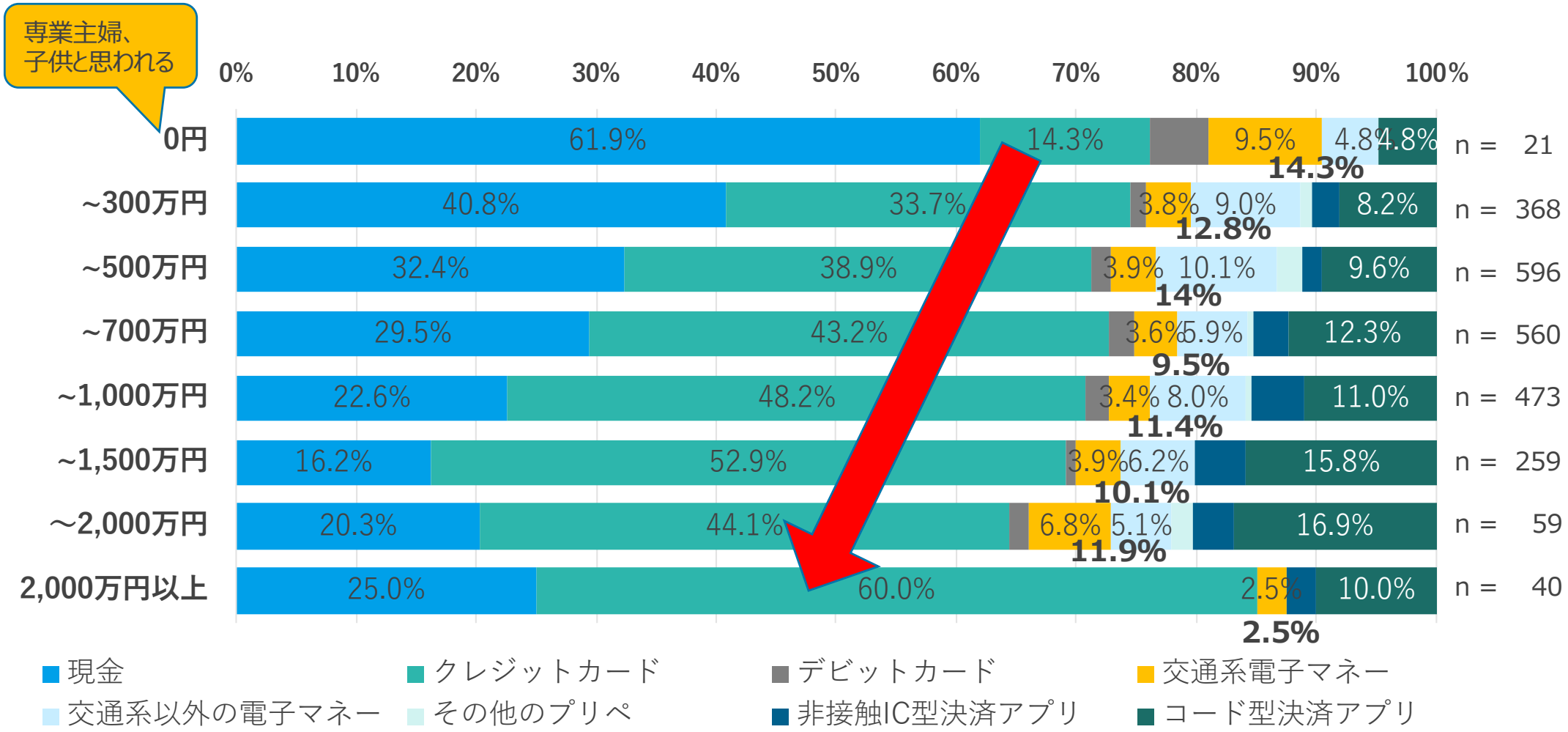
【設問】あなたが、今後、セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」をお答えください。
【回答】夫婦のみ世代のキャッシュレス利用意向が高い。



© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジにおいて利用したい決済手段（世帯年収別）

【設問】あなたが、今後、セルフレジでの支払い時に「最も利用したいと思う決済手段」をお答えください。
【回答】年収が高くなるにつれ、クレジットの利用意向が高くなる傾向。



© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

セルフレジにおけるキャッシュレス状況（まとめ）

■セルフレジにおけるキャッシュレス利用意向

- 日本のキャッシュレス比率（2018年、24.1%※）に比べ、セルフPOSにおけるキャッシュレス意向は高い（62%）※キャッシュレス・ロードマップ2020　図表 2 キャッシュレス支払額と民間最終消費支出に占める比率より
- 性別によるキャッシュレス利用意向はあまり変わらない（クレジット⇒現金⇒電子マネー／コード決済）
- 会社員、夫婦のみがキャッシュレス利用意向が高いが、無職の人も利用意向が高い（60%）
- 年収が高くなるにつれ、クレジットの利用意向が高くなり、電子マネーが低くなる傾向。

■セルフレジにおけるキャッシュレス利用実績（全体）

- 有人レジよりセルフレジの方が高い。
- コンビニ、スーパーとも男性の方が高い。
- コンビニは東北、スーパーは中国、東北が高い。
- 会社員が高いが、無職の人も高い。
- 年収が高い人ほど、キャッシュレスの利用率は高い。

■全体として

- 会社員、高年収、首都圏がキャッシュレス利用率が高いのは想定通りだが、無収入、無職、高齢者にも幅広く普及している。

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

３．事業者アンケートの結果

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（会社概要）

■回答社数　：14社（未回答　1社）

1．会社概要

1）業種：　SM、GMS

2）年商：

年商（百万円）	該当者数
50,000未満	5社
100,000未満	5社
100,000以上	4社

3）店舗数：

店舗数	該当者数
30店舗未満	4社
70店舗未満	6社
70店舗以上	4社

4）全レジ台数：

レジ台数	該当者数
200台未満	3社
500台未満	5社
500台以上	5社

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（会社概要）

1．会社概要

5）全体のキャッシュレス比率　：0%（現金のみ）~61%※平均35%

6）平均客単価（社平均）※平均は回答社のみ

①全体　：2,312円

②現金　：2,160円

③キャッシュレス　：2,683円　※キャッシュレスの方が高い。

全体単価	現金単価	キャッシュレス単価
2,200円	2,120円	2,410円
1,942円	1,904円	2,602円
2,286円	2,505円	1,694円
2,490円	2,330円	3,110円
1,950円	1,680円	2,850円
2,200円	2,100円	2,800円
3,500円	3,200円	4,000円
1,940円	1,805円	2,082円
2,300円	1,800円	2,600円

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（有人レジのキャッシュレス状況）

2．有人レジでのキャッシュレス対応状況

1）対応している決済手段（複数選択可）

・現金のみ　：01社／14社

・クレジット　：13社／14社（内、接触IC：9社、非接触IC：3社）

・銀聯　：03社／14社（内、接触IC：1社、非接触IC：1社）

・電子マネー　：07社／14社

・コード決済　：07社／14社

※クレジットはほとんどの加盟店で導入されている。

2）キャッシュレス比率　：0%（現金のみ）～55%※平均33%

3）平均客単価※平均は回答社のみ

①全体　：2,387円

②現金　：2,310円

③キャッシュレス　：2,598円

※キャッシュレスの方が高い。

全体単価	現金単価	キャッシュレス単価
2,200円	2,120円	2.410円
2,391円	2,643円	1,694円
2,090円	1,990円	2,600円
2,200円	2,100円	2,800円
3,500円	3,200円	4,000円
1,940円	1,805円	2,082円

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（セルフレジのキャッシュレス状況）

３．セルフレジのキャッシュレス対応状況

１）セルフレジ台数（セルフレジ／全レジ）

	セルフレジ導入率
A	58.3%
B	146.3%
C	22.7%
D	0.0%
E	35.7%
F	64.0%
G	6.0%
H	34.5%
I	0.0%
J	0.0%
K	52.2%
L	回答なし
M	0.0%
N	9.2%

⇒セミセルフレジ登録機に対するセミセルフレジ会計機の割合と想定

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（セルフレジのキャッシュレス状況）

3．セルフレジのキャッシュレス対応状況

2）対応している決済手段（複数選択可）

・現金のみ　：02社／10社

・クレジット　：07社／10社（内、接触IC：4社、非接触IC：1社）

・銀聯　：01社／10社（内、接触IC：0社、非接触IC：0社）

・電子マネー　：02社／10社

・コード決済　：04社／10社

※有人レジに比べ、キャッシュレスが進んでいない

2）キャッシュレス比率　：0%（現金のみ）～28%※平均23%

3）平均客単価※平均は回答社のみ

①全体　：2,332円

②現金　：2,287円

③キャッシュレス　：2,637円

※キャッシュレスの方が高い。

全体単価	現金単価	キャッシュレス単価
2,077円	2,212円	1,762円
2,720円	2,550円	3,350円
2,200円	2,100円	2,800円

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（キャッシュレス対応コスト）

４．キャッシュレス対応コスト

１）有人レジ1台当たり（千円）

①初期費（台）

B社　：35千円

C社　：1,500千円

D社　：1,200千円

E社　：95千円

F社　：100千円、端末台：40千円、設置費：60千円（早朝対応）

G社　：決済用モジュール開発、外付け決済端末（IC対応）、
端末専用設置台、通信ケーブル

H社　：69千円

I社　：100千円・設定登録費・ハード（端末、置き台、訪問設置）
LAN工事

M社　：30千円、端末置台、設置費用、ケーブル類

N社　：既にキャッシュレス対応が出来ており追加の費用は発生しない

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（キャッシュレス対応コスト）

４．キャッシュレス対応コスト

１）有人レジ1台当たり（千円）

②ランニング費（年／台）

D社　：20千円

F社　：保守なし、故障都度交換対応、
端末台：35千円　＋　設置費：20千円

G社　：決済センター料、決済手数料、通信費、ソフトウェア保守料

H社　：340千円

I社　：1320千円・手数料（アクワイアラー手数料、決済センター手数料）
・端末保守・ソフト保守

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（キャッシュレス対応コスト）

４．キャッシュレス対応コスト

２）セルフレジ1台当たり

①初期費（台）

C社　：1,500千円

F社　：115千円・端末台：　55千円（置台費用込み）

・設置費：　60千円（早朝対応）

H社　：69千円

N社　：既にキャッシュレス対応が出来ており追加の費用は発生しない

②ランニング費（年／台）

F社　：保守なし、故障都度交換対応

・端末台：35千円　＋　設置費：20千円

H社　：340千円

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（キャッシュレス対応意向）

5．キャッシュレス対応意向

1）今後、セルフレジでキャッシュレス対応したい決済手段

- クレジット　：09社／14社（内、接触IC：5社、非接触IC：8社）
- 銀聯　：04社／14社（内、接触IC：2社、非接触IC：2社）
- 電子マネー　：05社／14社
- コード決済　：08社／14社　※非接触ICクレジット、コード決済の意向が高い。

2）その理由

- 利便性　：6社
- 現金コスト削減　：1社

3）セルフレジでキャッシュレス対応していない又はする予定がない理由

- 機器コスト、手数料が高い
- CCT端末の多くは従業員立会の決済仕様で、カード読込口とプリンターが逆側の仕様のためセルフレジに取付けられない。

4）セルフレジで何が変わればキャッシュレス対応するか？

- 機器コスト、手数料が安価になる。お客様の要望がある。
- チェックアウト時間が速くなる。
- 種々の決済手段に対応した一体型端末が登場する。

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（セルフレジキャッシュレスのメリット）

６．セルフレジにおけるキャッシュレスのメリット

１）メリット

- 利便性
- 現金ハンドリングコスト削減（釣銭管理の負荷低減）
- レジの機器購入費が安価（決済端末コストの方が自動釣銭機より安価）
- レジスピード／効率の向上による生産性向上
- 現金のみではレジ効率の低下
- セルフレジがキャッシュレス対応出来ないと有人レジにお客さまが集中するし、レジ待ち時間が増える可能性が高い。
- お客様の要望／利便性の向上

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（セルフレジキャッシュレスのデメリット）

６．セルフレジにおけるキャッシュレスのデメリット

２）デメリット

- コスト（機器、手数料）
- 不正発生の可能性
- お客様の操作が複雑
- キャッシュレス対応すると登録機側のレジ従業員の作業が増加する
- 教育が困難。多くのキャッシュレス決済がありすぎて、高齢者の理解が難しい。
- お客様から問い合わせ増加によるレジアウト人時増
- 不慣れなお客様への対応が必要
- 現金対応のみの方がわかりやすい
- オーソリがNGとなった場合の対応
- 現金で事足りる為、敢えてキャッシュレス決済する目的がない。
- キャッシュレスのメリット（ポイント等） の負担が小売業

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果（その他の意見）

■機器コスト

- キャッシュレス100%にならない限り、専用機としてメリット（自動釣銭機コスト、現金ハンドリングコスト削減）が出ない。
- 種々の決済手段に対応した安価な一体型端末

■手数料

- 上限の規制

■インフラ

- QRコード・非接触など読取の規格を集約または統一
- 種々の決済手段に対応した一体型端末
- 非接触ICクレジットの対応（消費者からは非接触ICクレジットの要望は少なかったが、加盟店からの要望が多い。）

■行政に対する要望

- キャッシュレスに誘導する施策
- キャッシュレスのメリット（ポイント等）のコスト負担

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

アンケート結果
※2025年にキャッシュレス比率40%を達成するには、何が阻害要因で、何か必要か？

※2025年にキャッシュレス比率40%を達成するには

- 阻害要因：①手数料　②初期投資費用
- 上限の規制などできないか？（特に競争原理が働かないブランドに対して）
- 手数料(ランニング費用)が1%以下になること
- 初期投資に対する補助や税制優遇措置、通信費の抑制
- 必要と思われること：
  ①共通インフラ　②安価な対応機器　③国の後押し　④各種キャンペーン
- QRコード・非接触など読取の規格を集約
- クレジットカードの非接触IC対応

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.

Fin

© 2020 Payments Japan Association, all rights reserved.